調査実施概要　（調査元：BuildApp 総合研究所）	
調査期間：2025 年 3 月 21 日～3 月 31 日	回 答 数：1,257 人
調査対象：全国の 20 代～70 代の建設産業従事者 1,257 人	調査方法：インターネット調査（ゼネラルリサーチ株式会社）
都道府県ブロックの内訳	
・北海道 ・東北：青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県　（6 県） ・関東：東京都、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、神奈川県　（1 都 6 県） ・中部：新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県　（9 県） ・近畿：京都府、大阪府、三重県、滋賀県、兵庫県、奈良県、和歌山県　（2 府 5 県） ・中国：鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県　（5 県） ・四国：徳島県、香川県、愛媛県、高知県　（4 県） ・九州：福岡県、佐賀県、長崎県、大分県、熊本県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県　（8 県）	

【目次】

1. ノウハウや技術の喪失への危機感と喪失までの期間（単一回答） 2

2. 現在実施している、ノウハウや技術の継承方法（複数回答） 2

3. ノウハウや技術の継承の現状（単一回答） 4

4. ノウハウや技術の継承に有効な方法（複数回答） 5

【結果要点】

1. **【ノウハウや技術の喪失への危機感と喪失までの期間】**「ノウハウが失われるとは思わない」を除いた回答**（「失われる可能性がある」との回答）が多かったのは、1 位「四国（87.0%）」、2 位「北海道（85.7%）」、3 位「九州（84.6%）」**でした。

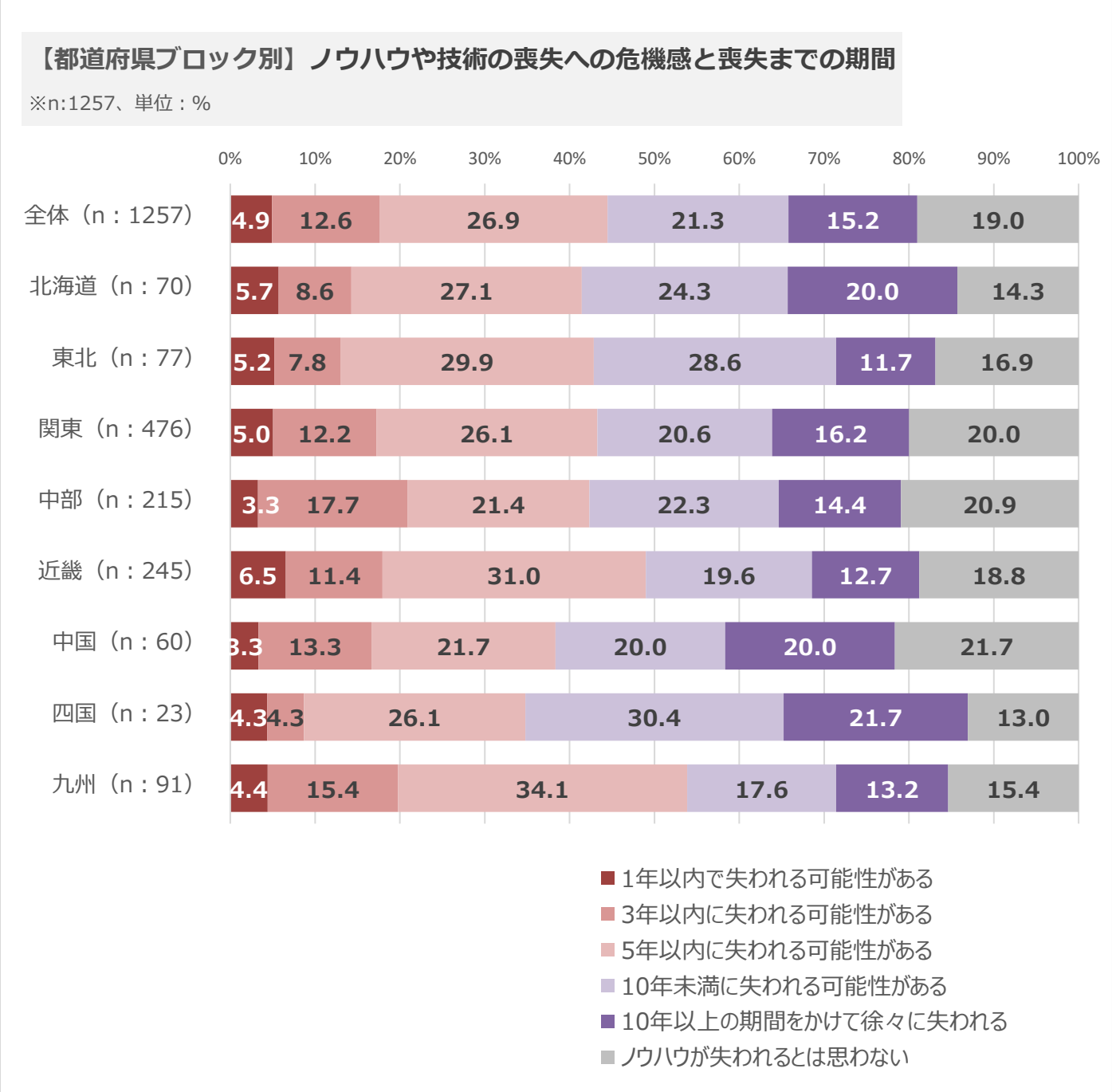
2. **【現在実施している、ノウハウや技術の継承方法】「口頭での指導が中心」との回答が多かったのは、1 位「北海道（48.6%）」、2 位「四国（47.8%）」、3 位「東北（41.6%）」**でした。また、「特に方法は取られていない」との回答割合が最も高かったのは、中国（38.3%）でした。

3. **【ノウハウや技術の継承の現状】**ノウハウや技術の継承が不十分だと思うかについては、**「若手に十分に伝えられていない」（「非常にそう思う」または「ある程度そう思う」）との回答率が高かったのは、1 位「四国（65.2%）」、2 位「九州（58.3%）」、3 位「近畿（55.6%）」**でした。

4. **【ノウハウや技術の継承に有効な方法】**「ノウハウを継承するのは難しい（経験や勘に頼る部分が大きいため）」との回答が多かったのは、1 位「四国（39.1%）」、2 位「中国（38.3%）」、3 位「東北（33.8%）」でした。

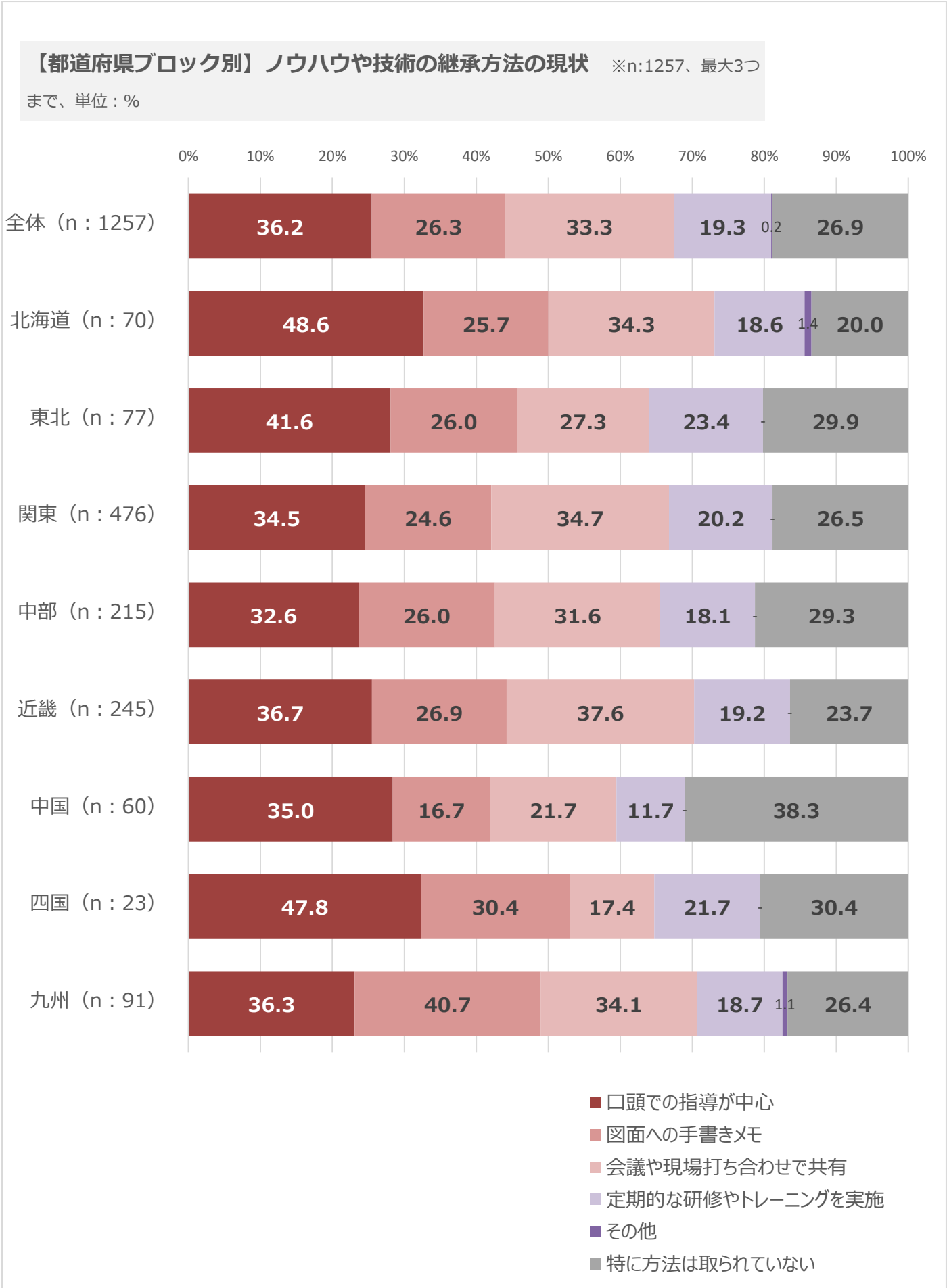
1. ノウハウや技術の喪失への危機感と喪失までの期間（単一回答）

- **人材不足がより深刻化する「2025 年問題」に伴い、現場の段取りや関係会社との情報伝達、現場連携といった建設プロジェクトの円滑な進行を支えるノウハウがどのくらいの期間で失われる可能性があると思うか**、と質問したところ、「ノウハウが失われるとは思わない」を除いた回答（「失われる可能性がある」との回答）が多かったのは、**1 位「四国（87.0%）」、2 位「北海道（85.7%）」、3 位「九州（84.6%）」**でした。



2. 現在実施している、ノウハウや技術の継承方法（複数回答）

- 「口頭での指導が中心」との回答が多かったのは、1 位「北海道（48.6%）」、2 位「四国（47.8%）」、3 位「東北（41.6%）」でした。
- 九州では、「図面への手書きメモ（40.7%）」が最多で、他のブロックに比べて特徴的な結果が出ています。
- 中国では、「特に方法は取られていない（38.3%）」が最多の回答でした。

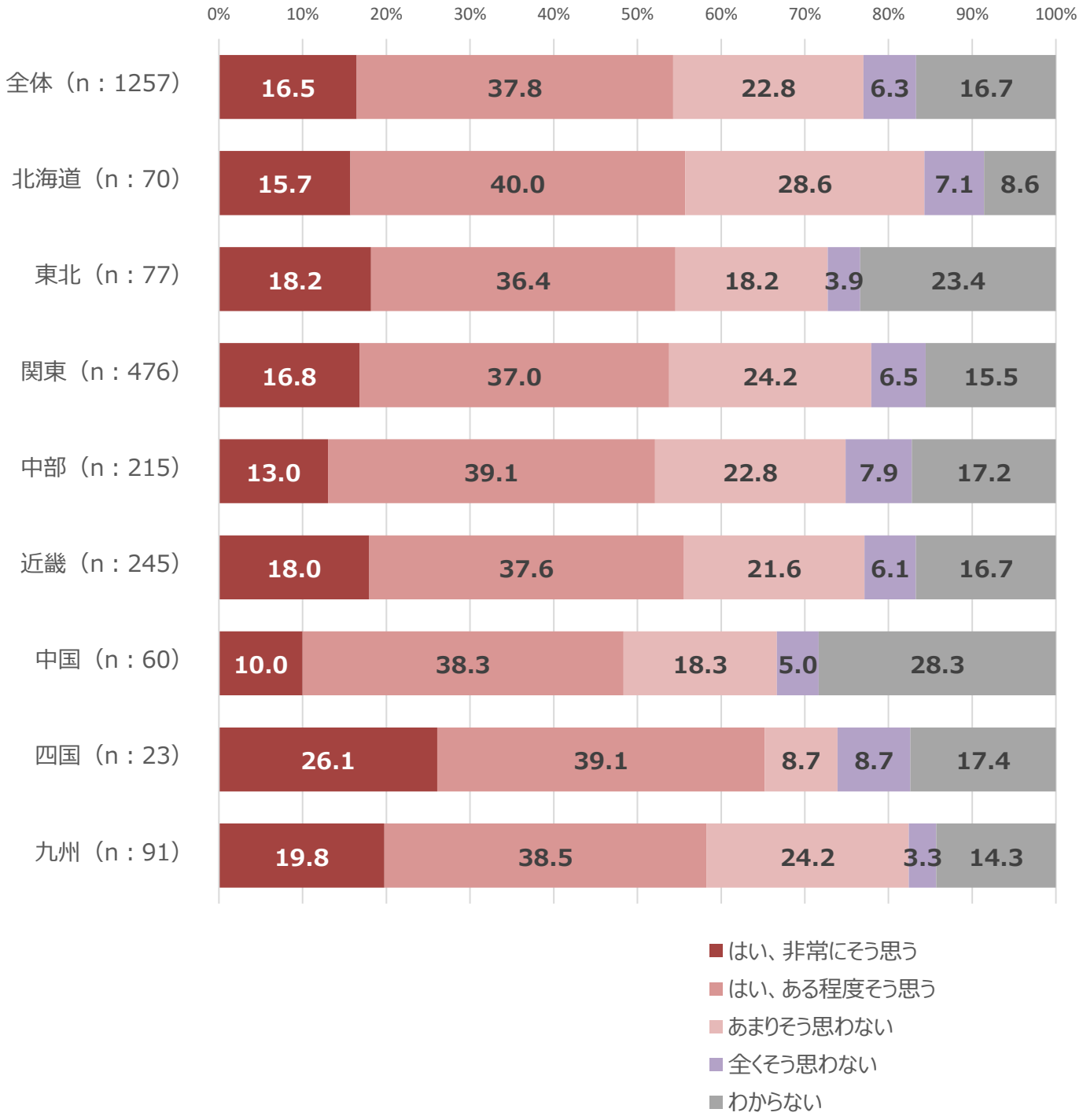

【都道府県ブロック別】ノウハウや技術の継承方法の現状 ※n:1257、最大3つまで、単位：%
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
全体（n：1257）
36.2
26.3
33.3
19.3
0.2
26.9
北海道（n：70）
48.6
25.7
34.3
18.6
1.4
20.0
東北（n：77）
41.6
26.0
27.3
23.4
29.9
関東（n：476）
34.5
24.6
34.7
20.2
26.5
中部（n：215）
32.6
26.0
31.6
18.1
29.3
近畿（n：245）
36.7
26.9
37.6
19.2
23.7
中国（n：60）
35.0
16.7
21.7
11.7
38.3
四国（n：23）
47.8
30.4
17.4
21.7
30.4
九州（n：91）
36.3
40.7
34.1
18.7
1.1
26.4
口頭での指導が中心
図面への手書きメモ
会議や現場打ち合わせで共有
定期的な研修やトレーニングを実施
その他
特に方法は取られていない

3. ノウハウや技術の継承の現状（単一回答）

- ノウハウや技術の継承が不十分だと思うかについては、**「若手に十分に伝えられていない」（「非常にそう思う」または「ある程度そう思う」）との回答率が高かったのは、1 位「四国（65.2%）」、2 位「九州（58.3%）」、3 位「近畿（55.6%）」**でした。

【都道府県ブロック別】ノウハウや技術の継承が不十分ではないか

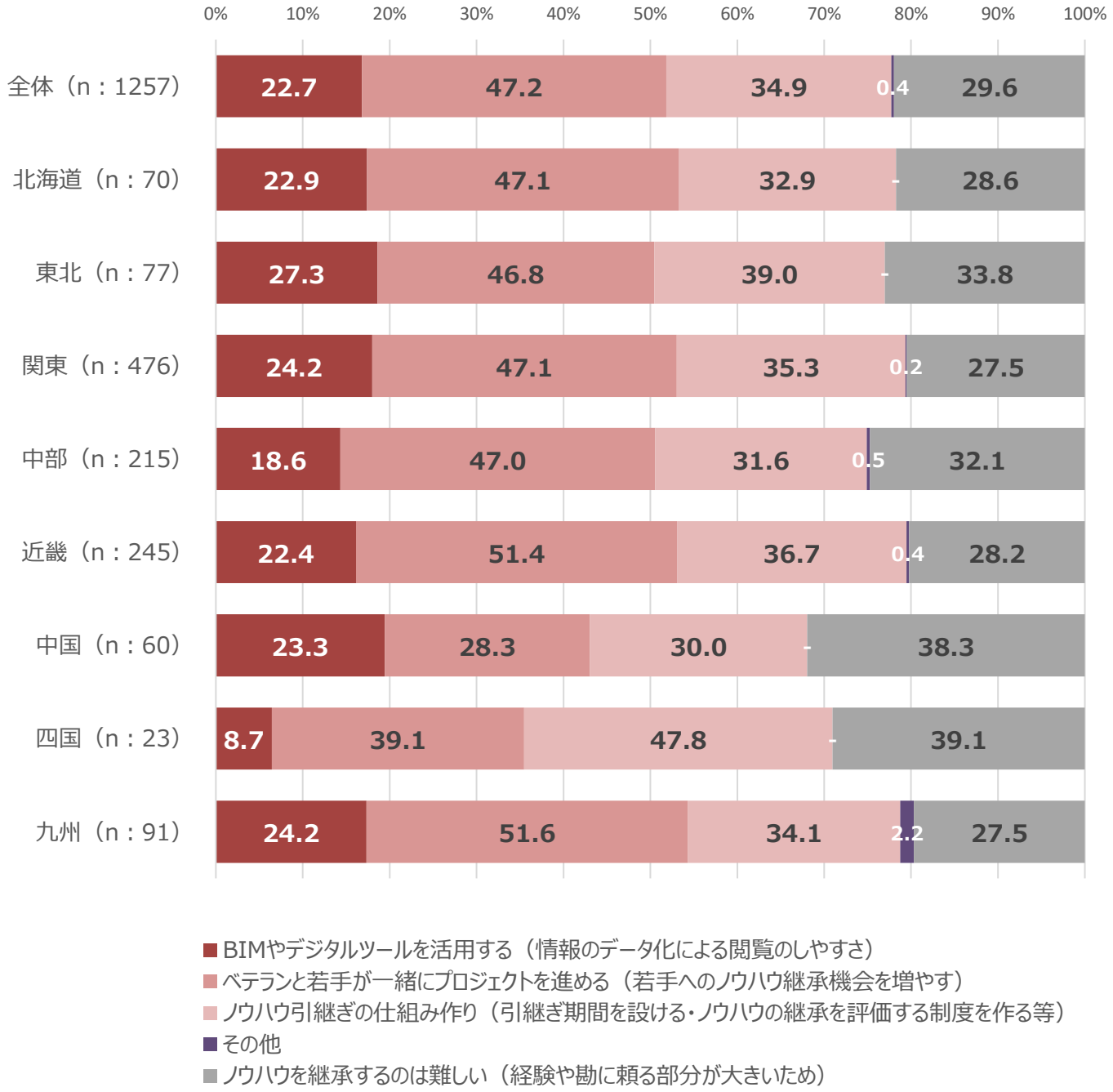
※n:1257、単位：%



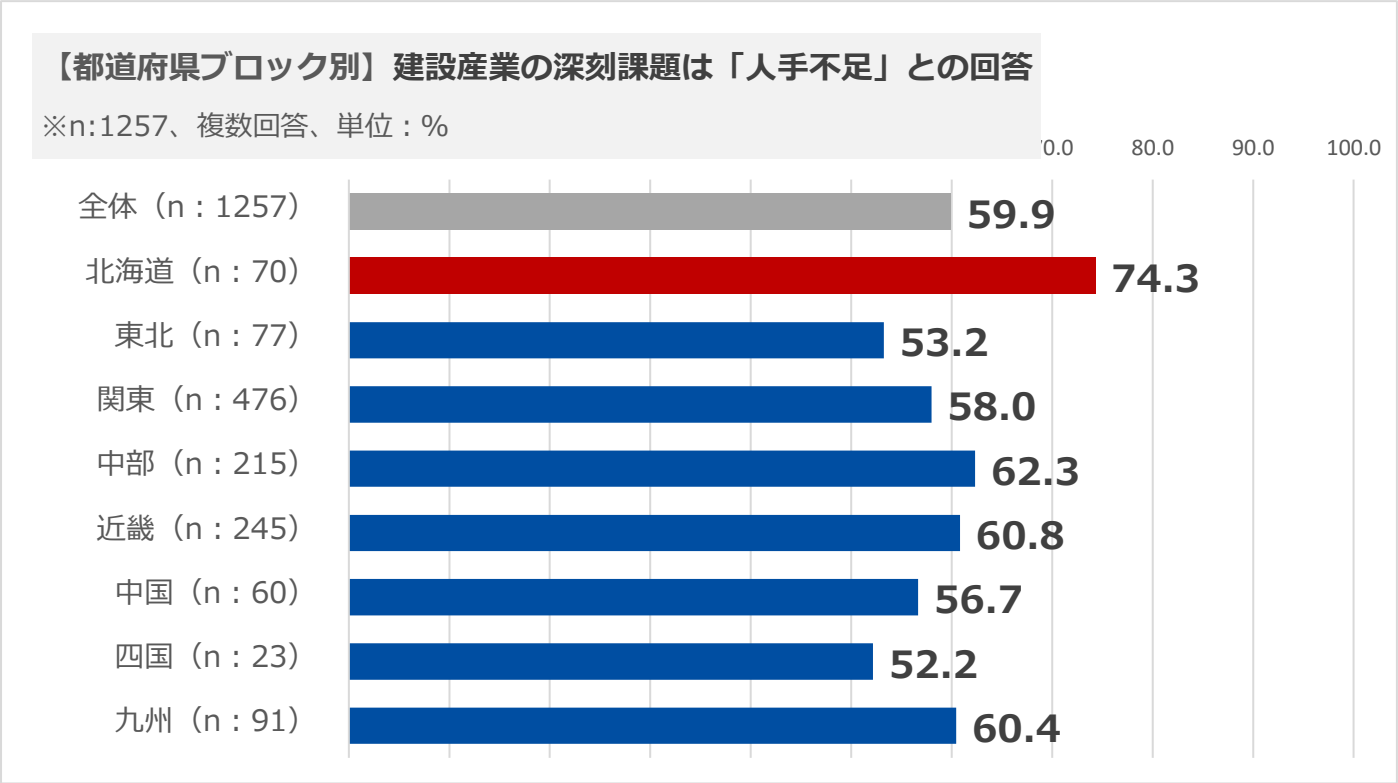
4. ノウハウや技術の継承に有効な方法（複数回答）

- 「ノウハウを継承するのは難しい（経験や勘に頼る部分が大きいため）」との回答が多かったのは、1 位「四国（39.1%）」、2 位「中国（38.3%）」、3 位「東北（33.8%）」でした。
- ノウハウや技術の継承に「特に方法は取られていない」との回答が多かった四国では、「ノウハウを継承するのは難しい（経験や勘に頼る部分が大きいため）」が最多の 39.1%で、「BIM やデジタルツールを活用する（情報のデータ化による閲覧のしやすさ）」は最少の 8.7%との結果でした。
- 「ベテランと若手が一緒にプロジェクトを進める（若手へのノウハウ継承機会を増やす）」については、近畿（51.4%）と九州（51.6%）で回答割合が高い結果となりました。なお、近畿と九州では、「建設産業の深刻な課題」に人手不足を挙げている方がそれぞれ約 6 割との結果も出ています。

【都道府県ブロック別】ノウハウや技術の継承に有効な方法※n:1257、最大3つまで、単位：%



▼参考_建設産業の深刻な課題は人手不足



以上

【本件に関する報道関係者からの問合せ先】
野原グループ株式会社
マーケティング部 ブランドコミュニケーション課
担当：齋藤・萩谷
E-Mail：nhrpreso@nohara-inc.co.jp